

- ☆平和行動in広島、in長崎
- ☆ネット21運動「夏休み自然体験2014in尾瀬」
- ☆「親子ものづくり教室」開催/ネット21運動パソコン助成
- ☆埼玉県最低賃金改正答申について/もうすぐ選挙/9月の行動日程
- ☆あけぼのビル

## 2014平和行動 in広島・in長崎

～核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を求めて～



in広島



in長崎

### in 広島

構成組織・地域協議会からの参加者による連合埼玉派遣団11名は、8月4日～6日にかけて被爆から69回目の夏を迎えた広島を訪れた。初日は、終戦まで軍港があり帝国海軍の要所であった呉市に行き、「海上自衛隊呉史料館」「大和ミュージアム」を見学、旧海軍の壮絶な海上戦争の状況や、今なお残る海中の不発弾を処理する掃海艇の活動を学んだ。

2日目は、広島平和記念公園およびその周辺の施設を見学した。中でも、「袋町小学校平和資料館」は爆心地から460メートルにあった小学校で、鉄筋の校舎のみが残り被災者の消息を知らせる伝言が数多く記されており、当時の状況を理解する貴重な史跡だった。また、午後からの被爆路面電車乗車学習会では、原爆投下時に走っていた車輛に乗り込み、広域に点在している数々の戦争跡を巡った。そして夕方からの連合主催(原水禁・KAKKIN共催)の平和集会での被爆体験証言で、多くの被爆者が亡くなっていく様子や広島市街地の様子が語られた。最終日の平和祈念式典では、この一年で新たに死亡が確認された被爆者5,507人の名簿が納められた。今年の3月時点で、被爆者健康手帳所有者は20万人を切り、平均年齢も79.4才と高齢化が進んでいる。私たちは、今回の視察で見聞したこと風化させることなく、核兵器のない世界に向けて活動をしていく。その一つとして、来年4月にニューヨークで開催される「核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議」に向けた「核兵器廃絶1000万署名」を展開し、世論喚起に取り組んでいく。

### in 長崎

8月8日～10日にかけて「連合・平和行動in長崎」が開催され、連合埼玉から15名が参加した。今回の長崎行動は、台風の接近を受け平和行動の実施そのものが危ぶまれたが、台風の進路が変わったこともあり、万灯流しが中止になった以外、その他の行動については無事に開催された。

初日は、連合主催(原水禁・KAKKIN共催)の「2014平和ナガサキ集会」に参加し、当時6才で被爆した原田美智子さんから被爆時やその後の家族の苦しみが語られ、時限爆弾のように発生する原爆がもたらす後遺症の悲惨さを思い知らされた。また、集会の中では高校生平和大使による活動が紹介され、「ビリョクだけどもリョクじゃない」をスローガンに活動を展開し国際社会に訴えかけがおこなわれるとともに、平和運動が若い世代へ継承されていることを確信した。

2日目は、「長崎原爆犠牲者慰霊平和式典」ならびに、午後から爆心地公園をスタート地点とする連合主催「ピースウォーク」に参加するとともに、原爆資料館・長崎原爆死没者追悼平和祈念館を見学し、原爆がもたらした悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、また平和の大切さを学び、世界平和に向けて何ができるかを考えさせられた。

いま国内では、集団的自衛権について議論が交わされているが、平和式典の中でも平和宣言で触れられるとともに、被爆者代表からは強い懸念が示された。世界の恒久平和に向けて日本ができることは何か、国民議論として改めて考える時が来ているのではないかと考えさせられるものであった。

日程		in 広島	参加者
1日目(8/4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「ピースウォーク①」(連合埼玉主催)</li> <li>時間 16:00~18:00</li> <li>会場 「大和ミュージアム」「海上自衛隊呉史料館」</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>小日向辰也 (UAゼンセン埼玉県支部)</li> <li>小久保忠夫 (JAM埼玉/フジアイタック労働組合)</li> </ul>
2日目(8/5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「ピースウォーク②」(連合埼玉主催)</li> <li>時間 10:20~11:30</li> <li>会場 慰霊碑めぐり(原爆ドーム・平和公園モニュメント)</li> <li>■「被爆路面電車乗車学習会」(連合主催)</li> <li>時間 13:00~15:00</li> <li>会場 広島電鉄広島駅前(広島駅~広島港~原爆ドーム前)</li> <li>■「連合2014平和ヒロシマ集会」</li> <li>時間 17:00~19:30</li> <li>会場 広島市文化交流会館</li> <li>■「平和の光」</li> <li>時間 20:10~20:30</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>木村 卓雄 (川越・西入間地域協議会/JF労組川越支部)</li> <li>関根 崇 (比企地域協議会/三井精機労働組合)</li> <li>井上 宗一 (西部第四地域協議会/太平洋セメント労働組合)</li> <li>高橋 充 (朝霞・東入間地域協議会/凸版印刷労働組合マテリアル関東支部)</li> <li>鈴木 勝宏 (東部地域協議会/NTT労働組合北関東総支部越谷分会)</li> <li>栗田 吉則 (北埼玉地域協議会/曙ブレーキ工業労働組合羽生支部)</li> <li>半田 純子 (連合埼玉女性委員会/JF労組埼玉連絡協議会)</li> <li>沼田 賢洋 (連合埼玉青年委員会/東京電力労働組合埼玉総支部)</li> <li>小林 孝徳 (連合埼玉副事務局長)</li> </ul>
3日目(8/6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「原爆死没者慰霊式・平和祈念式」(広島市主催)</li> <li>時間 8:00~</li> <li>会場 広島市平和記念公園 原爆慰霊碑前</li> </ul>		

- ①平和行動に参加したのは何回目ですか?
- ②何を目的に参加しましたか?
- ③現地に着いて最初に感じたことは何ですか?
- ④今回の平和行動で一番印象に残っていること・場所はありますか?
- ⑤感想


①2回目

②ピースウォークによる広島市内の8/6を知るため

③特別な日であること


④被災した小学校に当時書かれていたメッセージ

⑤市内の小中学校では8月6日は登校日で、黙祷と平和学習をするとのこと。また、市内各所に当時、被爆から辛うじて残った建物や木々に当時の写真と説明看板があります。平和の尊さを小さいころから学ぶ人たちののだと痛感しました。今なお、人間の私利私欲による戦争が起こっています。平和な世界になることを祈ります。




小日向辰也

- ①初めて
- ②戦争の悲惨さを学び、風化させないため
- ③暑さを覚悟していたが、雨のため比較的過ごしやすかった。
- ④平和ヒロシマ集会での坪井さんによる被爆体験の証言
- ⑤平和の語り部「坪井直さん」の被爆体験をお聞きして被爆により、亡くなられた方・被爆後69年もたっているが今なお原爆症に苦しんで知る方、そして被爆の生々しい体験証言をお聞かせ頂き、原爆の恐ろしさ悲惨さを改めて実感いたしました。我々の世代が原爆や戦争の悲惨さを後世に伝えなければ成らないと強く感じました。




小久保忠夫

- ①初めて
- ②教科書の知識だけではなく、現地について実際の記録等を見てみたかったから
- ③よく整備され都会化されており、戦争の面影をまるで感じさせない
- ④袋町小学校平和資料館において、一般市民の悲惨な体験を知る。
- ⑤現在の日本において紛争はなく当たり前のように平和を享受している、過去の戦争や今なお世界で行われている武力衝突はどこか違う世界の出来事のように感じています。ですが平和資料館等を見学し、被爆者である坪井直さんの講話を聴き、壮絶な苦勞を乗り越え今ある平和を築き上げてきたのだと思い知らされました。だからこそ維持していくためにも行動が大切だと考えます。




木村卓雄

- ①初めて
- ②平和希求、核廃絶を現地で学ぶため
- ③会場周辺に集まる人(各国・団体・宗教)が多いこと
- ④被爆路面電車
- ⑤語り部の坪井さんより、重症の自分では目の前にいる人も救えなかった生涯の苦しみを聴き、原爆のインパクトや亡くなられた方の無念さだけではなく、生き抜く人の真の絶望を知った。祖父もその時広島におり、生前に聞いた体験談と今回肌で感じたものが初めて重なり、私の当事者意識がいかに希薄であったか悔やんだ。戦争を経験しない世代が後世に伝えねばならない昨今、記憶を風化させない為に、しっかり橋渡しの使命を果たしたい。




関根崇

- ①2回目
- ②原爆で死没された方々への慰霊
- ③69年前この地はどんな状況であったのか
- ④平和記念公園での慰霊式
- ⑤原爆や戦争で亡くなった人々はどんな思いでいるのか、もっとも生きていたかった、もっと勉強したかった、遊びたかった、色々なことがあったなど、強く感じました。今現在の日本は犠牲となった方々がいて成り立っていると思ひ、二度と戦争という過ちを起こさないで戦没者へ約束しなければと強く思った。



井上宗一


- ①初めて
- ②教科書では伝わらない現地の声、想いについて実際に肌で感じてみたい
- ③ニュースではわからなかったが、観光や演説、ライブや宗教など日本人だけでなく様々な人種・目的を持った方が集結している、放送や太鼓、お経に加え、真夏の蝉の音が物々しい雰囲気を出してると感じた。
- ④平和記念資料館 被爆者の再現模型
- ⑤原爆症により入退院を繰り返し、3度も危篤状態となりながらも、そこで辞めずに伝え続ける気力は、一体どこから湧くのか?あの時生きることを諦めた自分を背負ってくれた先輩や無数にいる負傷者の中から自分を捜すために名前を呼びつけた母の為にも、助けてくれた恩をなんとか返したい。柔らかな語り口でしたが、2度とこんな思いを繰り返してはいけないという熱い想いを感じました。



高橋充




- ①5回目
- ②小さな事からでも出きる平和行動について改めて考えてみたいと思い参加
- ③原爆ドームの老朽化
- ④多くの千羽鶴が献納されている碑
- ⑤原爆投下から69年となる今年には43年ぶりの雨の中たくさんの関係者の方が式典に訪れていた。前日に行われた、「連合2014平和ヒロシマ集会」での被爆体験証言の話では聞かずに、写真や文章では伝わらない体験者だからこそこの想いが伝わってきました。語り部の方が年々少なくなっていく現状で、平和行動参加者が被爆者の想いを受け継ぎ伝えていかなければならないと感じました。




鈴木勝宏

①初めて  
 ②現地に赴き、戦争の悲惨さを肌で感じる  
 ③平和記念資料館で資料を見た時に怒りと悲しみ  
 ④原爆ドーム・原爆を落とされた前後の写真  
 ⑤大和ミュージアムや平和記念資料館を見学し、再度戦争の恐ろしさや愚かさ、原爆の怖さを感じました。平和集会では、被爆体験者の坪井直さんの生の証言を聞き、いま現在でも原爆の後遺症で苦しんでいる人が大勢いる事がわかり、戦時中という非常事態の中での行為とはいえ、許される事ではないと思いました。過去に起こった事をしっかりと受け止めて、後世に伝えると共に核廃絶・戦争の無い世界にする為に考えていかなければならないと思いました。




栗田吉則

①初めて  
 ②折鶴の献納、広島を知ることを知ること  
 平和について勉強したと思った。  
 ③外国人が多いと感じた。  
 ④被爆路面電車と、8月6日を迎えるにあたり全国からたくさんの方が集まっている事に感動した。  
 ⑤ニュースで見たり聞いたりすると、実際に現地で自分の目で見て体感するのは全く違ったものでした。広島の人達が被爆に負けず生きる希望を持ち続けていたことに感銘を受けました。私達若い世代がやるべきことは、1日も早く世界から核兵器が全てなくなる事を願い、被爆者の思いを受け止め、たくさんの人に伝え遺していく事が使命だと感じました。



半田純子

①2回目  
 ②広島には度々訪れているが、平和行動として参加することで、今までとは違う視点で物事を見ること・考える事ができると思い参加しました。  
 ③過去にどんな事があったのか、もう一度知りたいたい  
 ④平和記念資料館  
 ⑤私たちは、戦争の悲惨さを語り部の方々から聞き、後生に引き継いでいき、平和な生活がどのようなものなのか考えて行く必要があります。また、広島電鉄などの様に他者を気遣う心を育んでいくことが、日本が平和な国のままでいるために必要な事だと考え、今後の活動に活かしていきます。



沼田賢洋

日程		in 長崎	参加者
1日目(8/8)	<p>■「2014平和ナガサキ集会」</p> <p>時間 15:30~18:00</p> <p>会場 長崎県立総合体育館メインアリーナ</p> <p>内容 【第一部】2015NPT再検討会議に向けて基調講演「2015NPT再検討会議 第3回準備委員会報告と再検討会議への展望」 講師：広瀬訓長崎大学核兵器廃絶研究センター副長 【第二部】次世代への継承 被爆者の訴え、ピースメッセージ等</p>		<p>柴田美千子 (UAゼンセン埼玉支部)</p> <p>小畑慎一朗 (電機連合/安川労働組合入間支部)</p> <p>福田 祐子 (JAM埼玉/アレスティ労働組合関東東京支部)</p> <p>矢島 俊彦 (運輸労連/SBSロジコム労働組合)</p> <p>船田 誠 (運輸労連/ヤマト運輸労働組合埼玉支部)</p> <p>新井 通巧 (さいたま地域協議会/NTT労働組合北関東総支部浦和分会)</p> <p>森 洋介 (川口・戸田・蕨地域協議会/沖電気工業労働組合蕨支部)</p> <p>山本 浩之 (県央地域協議会/自治労北本市職員労働組合)</p> <p>工藤 純一 (熊谷・深谷・寄居地域協議会/太平洋セメント労働組合熊谷支部)</p> <p>田島 晴彦 (本庄・児玉郡地域協議会/埼玉県教職員組合児玉大里支部)</p> <p>永石 祐輝 (秩父地域協議会/三菱マテリアル横瀬労働組合)</p> <p>牧 邦夫 (連合埼玉執行委員/うらわ自動車教習所支部)</p> <p>滝沢美佐子 (連合埼玉女性委員会/NTT労働組合北関東総支部)</p> <p>川島 貴至 (連合埼玉青年委員会/全日通労働組合埼玉支部)</p> <p>増田 貴也 (連合埼玉副事務局長)</p>
2日目(8/9)	<p>■長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典(長崎市主催)</p> <p>時間 10:30~11:45</p> <p>会場 長崎平和公園</p> <p>■「ピースウォーク」(慰霊碑巡り)</p> <p>時間 14:00~16:30</p> <p>会場 原爆落下中心地公園・長崎市平和公園</p>		




平和ナガサキ集会




長崎での折鶴献納

①初めて  
 ②連合の平和行動について学ぶため  
 ③思ったよりも涼しい  
 様々な団体が8/9に合わせて集会を開催しているなあ  
 ④原爆犠牲者慰霊平和祈念式典  
 ⑤平和行動を通じて、長崎市の皆さんが原爆の悲惨さを伝える活動が大変重んじておられるということに感銘を受けました。原爆の悲惨さを語るとき、どんなことがあっても核兵器を使っはいけないと、どの国の人でも理解できるのではないのでしょうか。核兵器のない世界が速く実現することを、改めて強く願うばかりです。




柴田美千子

①初めて  
 ②平和祈念式典  
 ③—  
 ④被爆者のお話  
 ⑤小さい頃から祖父や祖母の戦争体験を聞いて育ちましたが、それから十数年経った今、実際に被爆者のお話を聞き、平和集会にも参加して、原爆の恐ろしさが身に染みるようでした。身をもって戦争の悲惨さを経験した被爆者の言葉は、次の世代の平和を一身に願ってのものでした。戦争体験者が年々減少する中、我々は過去から学び次世代の平和な世の中を守る義務を担っているのだと感じました。




小畑慎一朗

①初めて  
 ②平和への意識を高めるため  
 ③今もなお当時の悲惨な跡が残っているところ  
 ④原爆犠牲者慰霊式典  
 ⑤長崎平和集会に参加させていただき、大変貴重な経験をさせていただくことができました。69年経った今でも、被爆者として苦しんでいる方々が多数いらっしゃるから、「まだ戦争は終わっていない」という認識を強く持ちました。この出来事を継承していくことで、改めて平和に対する考えと、二度と戦争を繰り返さないという強い思いを残していきたいと思っています。




福田祐子

①3回目  
 ②69年たった今の長崎を知りたい  
 ③暑かった  
 ④爆心地  
 ⑤異国情緒あふれる長崎に原子爆弾が投下されて69年もたっただけで済みました。原爆が落とされて多くの方々が犠牲になられたことは、日本のみならず人間の犯した大きな過ちであったと思います。爆心地にさげられた沢山の千羽鶴や、原爆によって破壊された建物などを見れば、当時の悲惨さをあらためて感じ、こんなことは二度と起こしてはならないと痛感いたしました。




矢島俊彦

①初めて  
 ②平和・原爆・戦争・長崎の勉強を目的に。  
 ③市全体で慰霊をおこなう雰囲気を感じた。  
 ④原爆資料館  
 ⑤今まで学校の授業や情報で得ていた「戦争」「原子爆弾」「平和」の知識が足りていなかった事を痛感しました。ピースウォークで受けた説明と原爆資料館の見学にて、原爆投下までの経緯、原爆の威力等の理解ができ、中でも被爆者の証言では当時6歳の幼い子どもの証言が多くあり、どれも壮絶な内容で心と体が震え「何てことをするのだろう」と怒りを感じました。現在も原爆による放射能の苦しみを受けている人がいるという現実を知り、改めて核兵器のない、世界の重要性を感じています。




帆田誠

①2回目  
 ②長崎の街の現状を見聞きし、核兵器の非人道性と被爆者について知識と理解をより一層深めるため  
 ③原爆が投下されてから69年という歳月の重み  
 ④平和祈念式典での被爆者代表による「平和への誓い」  
 ⑤平和行動を通じ、来るべき社会に活躍する沢山の若芽の存在感に魅せられ良い刺激を受け、私も頑張らなければいけないと思いました。微力ながらも戦争や原爆で亡くなられた方々の慰霊、核廃絶と恒久平和を願う万灯の灯明のように「NO MORE WAR!!」の「祈りの火」を心に灯し絶やさずに、守り、伝え、引き継いでいきたいです。




新井通巧

①初めて  
 ②長崎で起きた現実を再確認し、平和を願う気持ちから  
 ③良い天気だったが、思ったよりも暑くなかったこと  
 ④旧長崎刑務所浦上刑務支所  
 ⑤平和祈念式典では、特に長崎市長の平和宣言に感銘を受けました。長崎の原爆のみならず「戦争をしない」という誓いが、被爆国日本の原点であり、被爆地長崎の原点であると、まさしくその通りだと思います。ピースウォークでは、平和記念碑などの関連施設を見学しましたが、はっとさせられたことは、多くの朝鮮人、中国人の方々も犠牲になられているということでした。この平和行動へ参加していなければ、そのことも知らずにいたことでしょう。




山本浩之

①初めて  
 ②当時の状況を知り、平和の大切さを再認識するため  
 ③原爆が投下されたことが信じられないくらい静かで穏やかだと感じた  
 ④原爆犠牲者慰霊平和祈念式典での被爆者代表のお話  
 ⑤原爆犠牲者慰霊平和祈念式典は、雲の間から太陽の光が差し込む良い天気でした。原爆が投下された日も天気が良かったと伺いました。空を見上げ、この空に爆撃機が飛来し、原爆が投下され、まさにわたしの立っているこの地で一瞬にして多くの命が犠牲になったのだな、と考えたとき胸が締め付けられるような思いになりました。




森洋介

①2回目  
 ②被爆都市の現状と課題、連合埼玉の仲間との交流  
 ③飛行機で来ると長崎はとても近い場所にある大きな都市  
 ④原爆資料館  
 ⑤平和祈念式典では、平和祈念像前広場には大勢の関係者や各階・各層、平和を願う国民・労働者が集まりました。一番心に残ったのは開会後の被爆者合唱でした。ノーモアウォー、ノーモアナガサキを後世に語り継ぎたいという思いを歌に込めて、高齢化した被爆者の皆様も何度も何度も練習して私たちに訴えたかと思うと目頭が熱くなりました。この研修や感動を職場に持ち帰り、平和の尊さを伝えたいと思います。




田島晴彦

①初めて  
 ②世界唯一の被爆国である日本の被爆地を訪れ、歴史や当時の状況を知り、その上で今後の日本はどうあるべきか考えたいと思いました。  
 ③昔は原爆によって何もかもなくなってしまうとは思えない綺麗な街だと思いました。青い海と幅の広い道路が長閑な雰囲気で素敵でした。  
 ④平和祈念式典  
 ⑤原爆犠牲者慰霊式典では幼い子供から大人まで、沢山の人が集まり、被爆者の演説を聞いて、改めて参加者全員で平和について真剣に考えたことが印象に残っています。また、当時の状況が残されている原爆資料館の見学や原爆落下中心地公園のピースウォークをして、原爆の非人道性や怖さ、どうすることも出来ない虚しさや悲しさがひしひしと伝わってきました。今回の研修で得た経験を活かし、微力ながらも核兵器根絶に向け出来ることをやっというと思いました。




工藤純一

①初めて  
 ②核兵器廃絶を改めて認識するため  
 ③原子爆弾投下による被害の甚大さ  
 ④原爆資料館  
 ⑤学生時代に何度か訪れていたが、改めて核兵器の恐ろしさを感じた。被爆から69年が経過し、年々、被爆者が減少している中、被爆体験を語ることで若い世代へ伝えていくことが重要であり、私自身、まだまだ知らないことが多くあると考えます。私としては、今回の機会のような被爆体験を聞ける場にもっと参加し、核兵器の恐ろしさ、被害の甚大さを今一度考えるとともに、今後も核兵器廃絶に向けた活動等に参加して行ければと考えています。



永石祐輝

①2回目  
 ②実際に現地に行かないとわからない事の体験  
 ③天気(台風が近づいていたので…)  
 ④路面電車が市民の移動の手段(足)になっていて生活に密着している事  
 ⑤原爆と言うと、すぐ「広島」と頭に浮かびます。勿論、長崎にも原爆が投下されたのは知っていますが、7万4千人の尊い命が奪われ、7万5千人が傷つき、そして今でも20万の方々苦しんでいることを知りました。そして世界には、未だに17,300発もの核兵器が存在し人類は核の脅威にさらされている事を知り多くの人に核兵器廃絶を訴えなければならぬと思いました。



牧邦夫

- ①初めて
- ②核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さを学ぶため
- ③路面電車が多く、交通手段が充実していると思った。
- ④長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典の被爆者のスピーチ
- ⑤自分が立った場所が、昭和20年8月9日に原爆により放射能を浴び、焦土と化し、多くの人が亡くなったという事。被爆された人が、終戦後も原爆症や火傷、怪我で苦しんだ事。直接被爆したわけだけでなく、また、その時は生まれていなかった場合でも原爆症で苦しむ人がいる事。この事実を私たちは忘れてはいけない、そして、核廃絶に向けて行動しなくてはいけないと思いました。



滝沢美佐子

- ①初めて
- ②戦争を体験していない世代として、自分の国で起こった戦争を知りたいと思いました。
- ③長崎市民の平和への思いの強さ、特に高校生平和大使の方達の行動力に感心しました。
- ④平和祈念式典での被爆者の方の「平和への誓い」は力強くとても心に響きました。
- ⑤今まで戦争に対してあまり恐怖感や危機感を持っていませんでした。しかし子どもが生まれてから考えは一変しました。大切な人と日常が奪われる事がどれほど恐ろしい事なのかがわかってきたからです。平和行動に参加して戦争と核兵器の恐ろしさを改めて感じました。



川島貴至

今年の体験は、「尾瀬ヶ原コース」と「至仏山コース」の2コースにて実施!

## ネット21運動 「夏休み自然体験2014in尾瀬」

「ネットワークSAITAMA21運動」(ネット21運動)の事業の一つとして実施している「夏休み自然体験2014 in尾瀬」が7月26日(土)・27日(日)の日程でおこなわれ、親子・夫婦など29名(スタッフ3名含む)が参加しました。今年は26日(土)に前泊して「尾瀬自然学習」と「参加者交流会」を実施し、翌早朝から「尾瀬ヶ原コース」と「至仏山コース(登頂)」の2班に分かれての自然体験となりました。早朝出発時は晴天であったものの、途中からは、まさに尾瀬につきものの雨に見舞われました。至仏山コース(2,228m)は雷にも注意しながらの登頂となりましたが、3人の小学生も含めて全員無事登頂・下山することができました。子どもの夏休み期間を利用した親子やファミリーによる尾瀬の自然体験、清掃ボランティア(ゴミ拾い)を目的とした事業ですが、参加者からは、環境保全など考える良いきっかけとなった、楽しい思い出となった、などの感想が寄せられました。

人が多く集まり、歩くだけで自然が変わってしまう、その自然を取り戻すために、多くの時間と費用がかかる。登山をし、自然を体験しながら環境を考える機会として、今回の活動に参加した。さすがに山に行く方のマナーは良く、目立つようなゴミは落ちていない。登山をする方の多くはゴミを持ち帰ることが身につけて「山にゴミを捨ててどうする」との考え方なのである。しかし、気づかずにゴミを落としてしまう、またはこのゴミは、「自然に戻るゴミ」と勘違いして捨ててしまうことがある。前者はお弁当に使った輪ゴム、栄養補給に使う飴の袋などの小さなゴミ、小さなごみだから落としたときには「あれ」と思っても小さなゴミだから「まあいいか」と思い、探さずに行ってしまう。後者においては、梅干の種、トマトのへた、飲料水の残りなど、自然に戻るゴミなの?自然に影響は与えないの?実際に山でのゴミの多くは、このようなゴミである。ゴミの持ち帰りはあたり前、プラス小さなゴミ等にも気を使い、次世代に自然を引き継ぎたいものである。

情報労連埼玉県協議会 NTT労組常盤分会 小口 宏



出発前



木道を散策中



尾瀬ヶ原コース



至仏山コース

夏休みの自由課題にも! 親子で楽しくコンクリートの仕組みを勉強!

金属部門連絡会 JCM埼玉「親子ものづくり教室」を開催

金属部門連絡会は、7月26日(土)ものづくり大学(行田市)にて、JCM埼玉「親子ものづくり」教室を開催した。夏の日差しが照りつけ非常に暑い日であったが、大人27名、子ども34名と多くの参加者が集まった。今年は、「コンクリートの置き物」づくりをものづくり大学の先生や学生たちの協力を得て、挑戦した。

近藤部会長(副会長)の挨拶後、ものづくり大学の先生からコンクリートについて簡単な説明を受け、置き物づくりをスタートさせた。まず練習として、あらかじめ様々な形に固め作られている置き物を1人1個選び、色付けの練習をおこなった。その後、コンクリートの材料を混ぜてデザイン型に流し込み、約20分で硬化した作品を型から取り出し、色付けして完成という手順であった。参加者は、みな真剣な眼差しで、各工程を進めていたが、作業では子どもたちより、その親御さんの方がのめり込んでいるように見受けられた。最後に参加者全員で、それぞれの作品を持って記念撮影をおこない、今年の「親子ものづくり」教室は終了となった。

このイベントも今年で3回目の開催となり、夏休みのイベントとして定着がはかられつつあり、参加者からも好評を得ている。また、ものづくりの大切さ、楽しさを子どもたちに伝える事業の趣旨に賛同いただき、ものづくり大学も協賛として参画頂いている。来年度も興味が持てる内容で、実施したい。



上手に色づけできるかな?



コンクリートをまぜまぜ



出来上がった作品を持って、全員で

「ネットワークSAITAMA21運動」NPO応援・物品助成プログラム

皆さんの回りで活動している団体をご紹介ください。ネット21運動が支援します。

ネットワークSAITAMA21運動では、「共生の地域社会づくり」をめざし、地域で支えあい・助け合いのネットワークを広げるために、地域で活動するNPO、市民団体を支援し、「ネット21運動」との連携や協働をさらに進めるため、本年度も「NPO応援・物品助成プログラム」を実施します。

詳しくは、連合埼玉発信文書174号をご覧ください。

【物品助成プログラム(パソコン寄贈)について】

1. 応募方法および助成基準

「NPO応援・物品助成プログラム(募集方法及び助成基準)」にもとづき実施します。

2. 推薦手続き

「NPO応援・物品助成プログラム」推薦書に必要事項を記入し、募集基準2の3項に定める資料を添えて、10月16日まで「ネット21運動」事務局(埼玉労福協内)までご郵送下さい。

※上記「募集基準及び助成基準」と「推薦書」は、「ネット21運動」のURLからダウンロードできます。

〈ネットワークSAITAMA21運動〉 URL <http://net-saitama21.jp/>

ノートパソコン(富士通製)を寄贈します! ※限定10台

2014年度 NPO応援・物品助成プログラム

【ネットワークSAITAMA21運動】では、「共生の地域社会づくり」をめざし、地域で支えあい・助け合いのネットワークを広げるために、地域で活動するNPO、市民団体への支援の一つとして、ノートパソコンを寄贈しています。 <2013年度は、10台寄贈しました>

『ネットワークSAITAMA21運動』とは  
連合埼玉(一社)埼玉労働者福祉協議会が主体となり、さいたまNPOセンターも連携協力しています。個別企業の特許を越えた労働者福祉運動と、埼玉県内で高齢者・障がい者支援、子育て支援、健康促進、住みやすい街づくりなどの様々な活動を進めているNPOや市民団体への支援と連携を通じて、働く者と地域の市民が出会い、お互いに理解しあって、勤労者の生活と暮らしをともに支え合う「共生の地域社会づくり」をめざす新たな自主福祉運動。  
— それぞれ「ネットワークSAITAMA21運動」からです。

助成基準や詳しい応募方法について  
応募受付期間: 8/18(月)~10/16(木)  
一社)埼玉労福協(☎048-833-8731)または、  
さいたまNPOセンター(☎048-811-1666)まで。  
※「ネット21運動」のホームページでもご覧いただけます。URL <http://net-saitama21.jp>

出会い・つながり・支えあい  
『ネットワークSAITAMA21運動』  
連合埼玉・一般社団法人 埼玉労働者福祉協議会・さいたまNPOセンター

## 平成26年度埼玉県最低賃金の改正答申について

埼玉地方最低賃金審議会は、本年7月4日埼玉労働局長から「埼玉県最低賃金の改正について」の諮問を受け、埼玉県最低賃金専門部会を設置し、本年7月29日付中央最低賃金審議会の目安の考え方にに基づき、調査審議を重ね、8月4日に埼玉労働局長に対し、埼玉県最低賃金額を「時間額802円」とする旨の答申をおこなった。

この時間額802円は、現行の埼玉県最低賃金(785円)を「17円」引き上げるものである。異議申出などの諸手続きを経て、埼玉県最低賃金額を決定した。なお、この最低賃金は、本年の10月1日より施行される。

### 【参考:埼玉県最低賃金額及び対前年度上昇率・上昇額】

	平成24年度	平成25年度	平成26年度(答申)
時間額	771円	785円	802円
対前年度上昇率	1.58%	1.82%	2.17%
対前年度上昇額	12円	14円	17円

### ＝ も う す ぐ 選 挙 ＝

#### 草加市議会議員選挙

◆新井 貞夫(あらい さだお) 75才(民主・現11・連合埼玉推薦4回目)  
告示日:2014年10月19日(日) 投票日:2014年10月26日(日)

### 現在予定される9月の日程表です

9月		行事等	
		連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	月	第5回官公労部門連絡会(18:00～・連合埼玉会議室)	①連合「2015年度政策・制度実現の取り組み方針案の策定に関する地方連合会との意見交換(13:30～・連合会館) ②埼玉労福協企画委員会(15:00～・ときわ会館)
2日	火		①第4回地方連合会事務局長会議(14:30～・宮城県) ②埼玉労福協「第15次東南アジア労福協視察団」解団式(17:00～・ときわ会館中ホール)
3日	水		特定最賃合同専門部会・非鉄/輸送(13:30～・埼玉労働局)
4日	木		秩父地域協議会幹事会(18:00～・秩父市勤労者福祉センター)
5日	金	第2回地協議長・事務局長会議(15:00～・あけぼのビル)	
6日	土	組合役員教育プログラム①②(10:00～・あけぼのビル)	電機連合埼玉地協「第54回定期大会」(東武バンケットホール上尾)
7日	日		①比企地域協議会幹事会(11:00～・伊香保「福一」) ②埼玉労福協理事会・役員研修会(7～8日・岩手県・宮城県)
8日	月		運輸労連「第47回定期大会」(13:30～・さいたま市民会館おおみや)
9日	火	①第9回四役・執行委員会(10:00～・13:00～・ときわ会館) ②第4回組織委員会(執行委員会終了後)	
10日	水		
11日	木		
12日	金	「女性のためのSTEP UPセミナー(中級編)」(10:00～ 13日11:45・あけぼのビル)	
13日	土	2014平和行動in根室(～16日)	
14日	日		
15日	月		2014全国高齢者集會および第1回組織代表者会議(13:00～ 16日・日比谷)
16日	火		
17日	水	①政策制度対案要請(9:30～) ②組合役員教育プログラム③④(10:00～・あけぼのビル) ③埼玉シニア連合第5回幹事会(14:00～・連合埼玉会議室)	
18日	木		情報労連「第45回定期大会」(15:00～・あけぼのビル)
19日	金	第24回チャリティーゴルフ大会(おむらさきゴルフ倶楽部)	
20日	土	ネット21「NPOインターンシップ・説明会」(10:00～・あけぼのビル)	
21日	日		
22日	月	ネット21運営委員会(10:00～・連合埼玉会議室)	①北埼玉地域協議会第8回幹事会(18:30～・羽生市民プラザ) ②関東ブロック第24回海外交流視察団(～26日・ドイツ)
23日	火		
24日	水		①電機連合埼玉地協「第21回チャリティーゴルフ大会」(東松山カントリークラブ) ②2014社会保障制度に関する構成組織・地方連合会政策担当者会議(13:30～ 9/25 12:00・中央大学駿河台記念館)
25日	木	メンタルヘルス研修会(基礎編)(10:00～17:00・あけぼのビル)	
26日	金		関東ブロック2014政策フォーラム(13:30～・千葉京成ホテルミラマール)
27日	土	組合役員教育プログラム⑤⑥(10:00～・あけぼのビル)	
28日	日	埼玉シニア連合第3回ボウリング大会(10:00～・浦和スプリングレーンズ)	
29日	月		
30日	火	埼玉公務労協設立総会(18:30～・あけぼのビル)	

# あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

## ◆終戦から69年

終戦から69年経った8月15日、政府主催の「全国戦没者追悼式」が日本武道館で開かれた。安倍首相は追悼式で、1993年の細川護熙首相が初めて近隣諸国の犠牲者に哀悼の意を表明し、1994年の村山富一首相以降、すべての日本の首相が追悼の辞に含ませていた「アジア諸国への加害と反省」「不戦の誓い」には言及せず、昨年に続き追悼の辞を読んだ。安倍首相は第1次政権の2007年の式辞では「多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えた」として、「深い反省」を表明していた。

総務省統計局が毎年10月1日現在でまとめている人口推計によると、1976年に初めて戦前・戦中生まれと戦後生まれの人口が逆転し、2013年には戦後生まれが全体の79.5%に当たる1億119万1000人に達した。

戦争の悲惨さを経験者が子どもたちに語り継ぐ取り組みが各地で進められているが、若い世代には語り部たちの思いが十分に理解されないこともある。

自分も幼い頃、母親から東京大空襲の中を逃げた時の話を聞かされた。何回も聞かされ「もう、いいよ」と面倒くさかったこともあった。戦争の経験のない自分たちが、今後、戦争をどう語り継いでいけばいいのか、今年の終戦記念日に感じたことを記述する。

## ◆被害と加害

これまで私たちは、悲劇的で残酷で無残な行為を受けた被害者の立場で戦争や原爆を捉えてきた。そして、被害を受けた事実を伝えるために連合埼玉独自の平和集会を開催し、沖縄、広島、長崎の平和行動に参加してきた。このことは確かに私たちに戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさ、平和の大切さを伝えている。

しかし、それと同時に私たちは、日本がおこなった加害の事実も同様に、そして正確に伝えていかなければならないのではないだろうか。

「被害の事実を伝えることと同時に、加害の事実を伝える事を怠った、それは過去の過ちに対する責任から逃れようとしているようにも見える。過去に目を閉ざ

す行為は、結局のところ、現在においても盲目となる。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすい。若い人たちにかつて起こったこと責任はないが、その後の歴史の中でそうした出来事から生じてきたことに対しては責任がある」これは1985年5月8日、西ドイツのヴァイツゼッカー大統領が、ドイツの敗戦40周年にあたって連邦議会でおこなった演説の一部である。

日本と同様、ドイツは第二次世界大戦の敗戦国として終戦を迎えた。戦後、明らかとなったナチスの残虐行為は世界を震撼させ、悪の象徴として映画やドラマ、小説などあらゆる場面に登場する。

一方、ドイツは自らの戦争行為を率直に見つめ、被害者の戦後補償に取り組むだけでなく、忌まわしき歴史を繰り返さぬよう平和教育に力を注いでいる。自らの歴史を見直すことは、決して過去の否定や自虐行為ではなく、新たな未来を切り開くための礎だと思う。

## ◆未来を切り開く大切な日

私達はこれからの世代に事実を包み隠すことなく伝える義務がある。被害者であると同時に加害者であったという事実も含めてである。平和とは、敵対するのではなく、互いに手を取りあって生きていくことであると解釈するならば、事実を知ることによる本当の歴史の再認識が今求められる。

日本もこれまで不徹底とはいえ、過去の加害責任に向き合い、また、唯一原爆の被害を経験した国として不戦の誓いを長く実行に移してきた。グローバリズムの中で、アジアで共存していかなければならない我が国であるならば、被害者意識だけではなく、加害者の立場になって過去に思いを致す姿勢も必要ではないか。日本は悪いことだけをしたという考えに偏るのではなく、また、日本は全く悪くなかったというのでもなく、公平に歴史の真実を見つめる歴史観が必要ではないか。

少なくとも毎年8月15日は、戦争で犠牲になった方々への鎮魂の祈りと新たな未来を切り開くための大切な日としたいと思う。

2014. 8. 21